

[501] “过了二十年又是……” ——大団円（六）『阿Q正伝』を読む（24）

(93) “这一定是‘嚓’的去杀头”

他省悟了，这是绕到法场去的路，这一定是“嚓”的去杀头。他惘惘的向左右看，全跟着马蚁似的人，而在无意中，却在路旁的人丛中发见了一个吴妈。很久违，伊原来在城里做工了。（彼は気がついた。これは回り道をして刑場へ行く道だ。これはきっと「バサッ」と首をちょん切られるに違いない。しょんぼりとして目を左右に向けると、蟻のようにぞろぞろと付いてくる人ばかりだったが、思いもかけなかったことに、路傍みちそばたの人込みの中に吳媽の姿を発見した。ほんとうに久し振りだった。さては彼女は城内へ働きに来ていたのだ。）

阿Qはしょんぼりとして、芝居の歌一つ唱えずにいる自分が、急に恥ずかしくなった。

(94) “还是‘手执钢鞭将你打’罢”

他的思想仿佛旋风似的在脑里一回旋：《小孤孀上坟》欠堂皇，《龙虎斗》里的“悔不该……”也太乏，还是“手执钢鞭将你打”罢。（彼の思考は旋風のように頭の中を駆けめぐった。『若後家の墓参り』は勇ましさに欠ける。『龍虎闘』の中の「悔ゆとも詮せんなし……」も弱々しすぎる。やはり「手に鋼はがねの鞭を執りてなんじ汝をば打たん」に限る。）

彼は手を振り上げようとして、両手が縛られていることに気づいた。そこで「手に鋼の鞭を執りて」もやめにした。

(95) “过了二十年又是一个……”

「二十年たったらまた生まれ変わって……」 “又是一个好汉”と続く。このセリフ、死刑囚が刑を執行される前に口にするのを、映画や小説で何度も聞いたり読んだりした記憶がある。旧時の中国にはこのような迷信があったのであろう。

阿Qは混乱した頭の中で、“无师自通”どこで覚えたのか、これまで一度も口にしたことがないことばを途中まで口にした。

“好!!!” 从人丛里，便发出豺狼的嗥叫一般的声音来。（「いいぞ!」，人むれの中から、まるで狼か山犬はが吼えるような声が起こった。）

車は休みなく前進する。阿Qは喝采の声を浴びながら、人ごみの中に吳媽の姿を求めたが、彼女の方は彼に目を向けてくれる様子はなく、兵士たちの背中の鉄砲に見とれているばかりであった。

(96) “永远记得那狼眼睛”

阿Qはそこでもう一度、あの喝采した群衆の方へ目を向けた。

その刹那まじな、彼の思考はまたも旋風のように頭の中を駆けめぐった。

四年之前，他曾在山脚下遇见一只饿狼，永是不近不远的跟他，要吃他的肉。（四年前のことである。彼は山のふもとで一匹の飢えた狼に出会ったことがあった。狼は近づきもせず遠のきもせず、彼の肉を食おうとして、いつまでもあとをつけてきた。）

他那时吓得几乎要死，幸而手里有一柄斫柴刀，才得仗这壮了胆，支持到未庄。（彼はその時、あまりの恐ろしさに死ぬ思いをしたが、幸い手に一挺なたの鉞なたを持っていたので、それにすがつて肝をすえ、なんとか持ちこたえて未ウェイチュアン庄チュアンまでたどりつくことができた。）

だが、いつまでもその狼の眼ことは忘れられない。

2017/5/12